

ムダで有害な財産取得

今年度もタミフルを財産として取得する議案が出されました。国は2009年1月に「タミフルは1330万人分、リレンザは133万人分、総額1385億円を準備する」と自治体に約束し、その計画に基づいて着々と新型インフルエンザ薬タミフルの備蓄が進められています。今年度、千葉県は21万人分購入。では、使用実績はどうでしょう。今回の震災で旭市に260人分送った

のようですが、何人が使用したかは不明。タミフルといえば副作用、異常行動などの怖さでも知られています。10代には使わない、といわれているくらいです。この議案には反対しました。効果のわからないリスクの高い薬に、今日の非常時、国家予算を使う余裕はありません。国の計画とはいえ、本事業は自治事務です。千葉県としてタミフル備蓄へと進んでいるのは大いに問題あります。

千葉県のタミフル備蓄量

※厚生労働省「新型インフルエンザ対策行動計画」に基づき、備蓄を行っている

	備蓄量	購入費用
平成18年度	24万8千人分	561,940,000円
平成19年度	24万8千人分	585,900,000円
平成21年度	21万6千人分	416,404,800円
平成22年度	21万6千人分	427,064,400円
平成23年度	21万5千人分	381,517,500円
合計	114万3千人分	2,372,826,700円

放射能汚染の汚泥問題で要請

6月20日、社民党は、浄水場や下水道処理場の放射性物質に汚染された「汚泥」が「仮置き」されている問題について県に以下の要請を行いました。

1. 政府の原子力災害対策本部による、「当面の取扱方針」を受け、至急対策を講じその計画を公表すること。
2. 汚泥の拡散・流出がないのか、至急、モニタリングを行い、実効性ある飛散・流出防止策をとること。
3. 飛散・流出防止策の説明、子どもたちの被爆対策などを「仮置き場」や浄水場近隣の住民に明らかにすること。

改選後、「市民ネット・社民・無所属」という改選前の会派名と変わらないうのですが、3名が入れ替わって会派を結成し活動しています。平和憲法を守り、県民の声にしっかりと耳を傾け、行動力で勝負する会派です。

市原市の山本友子
鎌倉市の入江晶子
鎌ヶ谷市のふじしろ政夫
そして小宮清子。
小さな会派ですが存在感ある議会活動を展開します。



新メンバーで会派結成

小宮後援会 会員募集

当後援会は、小宮清子の政治・社会・文化活動等を支援するとともに千葉県政・流山市政の充実を目指し、あわせて会員相互の親睦を図り、下記のような活動をしております。

記

1. 活動
 - ・県議会傍聴と研修見学会（年1～2回）
 - ・講演会、研修会・見学会等の開催
 - ・社民党諸行事への参加
 - ・後援会誌「わ」を年間4回発行 等
2. 行事
 - ・定期総会の開催（年1回、3月）
 - ・親睦旅行（一泊二日）
 - ・さわやかパーティー（12月） 等
3. 年会費 1200円
 - ・ご家族（複数人）で入会されても年会費は1200円です。
 - ・会計年度は、毎年3月1日から翌年2月末日までです。
 - ・年度途中での入会は月割り（1ヶ月100円）とし、入会の翌月より年度末（2月）までの月数を年会費とします。
4. 入会受付
小宮清子後援会事務所 04-7159-3781

東葛地域における重症心身障がい児施設建設について

（前頁から続く）
※千葉県の高齢者人口は約130万人（平成22年4月）。しかし、平成27年には約160万人。（これは県民の4人に1人が65才以上）高齢期をいかに充実して、生きていくことができるか。生涯大学の役割はさらに重要となります。

化学物質過敏症で苦しむ県民を救おう

入れるべきと考えます。ご家族も強く要望していますが、どうでしょうか。
（答弁）事業計画では、内科、整形外科、リハビリテーション科が予定されている。県としては小児神経科の要望を引き続き働きかけていく。
※施設建設にあたって、最も大切なのは当事者家族の声です。カヤの外で意見を聞くのではなく、同じテーブルに。

平成26年1月開所予定。入所70名、短期入所10名。柏市にある柏光陽病院移転後の施設を改修する計画で進められています。
（質問）この間、県、6市、柏光陽病院での話し合いが行われていますが、当事者家族を加えるべきと考えますが、どうですか。
（答弁）ご家族の意見を伺う機会を設けるなど、家族の意見が事業者の計画に反映されるよう努めてきた。今後は、事業計画の具体化や基本設計が予定されているので、さらに家族の意見を伺う機会を設けていきたい。
（質問）診療科目に小児神経科を必ず

流山市の隣、野田市において操業している柏廃材（産業廃棄物焼却処理）の近隣において、化学物質過敏症、あるいは体調不良等の健康被害が問題となつています。今回、住民からの強い要望もあり、健康影響調査が実施されました。また、この間取り組まれている揮発性有機化合物等調査結果をもとに質問しました。
（質問）調査結果を県はどのように受け止めましたか。
（答弁）調査結果からは原因の特定に至らなかったため、原因を明らかにする調査等について野田市と連携を図

り、検討する。
（質問）柏廃材周辺の化学物質過敏症対策を県として、しっかりと取り組むべきと考えますが、知事の見解を伺います。
（答弁）野田市と連携し、速やかに検討していきたいと思うので、了解願いたい。
※健康調査分析結果報告は、岡山大学大学院環境学研究所の津田敏秀氏によるものです。その報告によれば、柏廃材の操業により、症状の多発が強く示唆されているとあります。
かたや県と野田市が行った揮発性有機化合物等調査では、柏廃材からの揮発性有機化合物が周辺に与える影響はほとんどないと考えられるとの結果を出しています。
二つの調査結果が全く逆の結論を導いており、県は迅速に次の対応に取り組まねばなりません。化学物質過敏症の苦しい日々を送っている方を思い、さらに増える可能性にも危機感を持つべきです。
なお、柏廃材の産業廃棄物処分許可が9月21日で切れます。県は安易に更新許可をするべきではありません。